

これからのまちづくりを（新宮・古賀・福津の合併で）

はじめに

まちづくりでは、ハード・ソフト面で何を造るか、現状を如何に改良するかが関心になりがちであるが、自治体が財政的に自立できること、周辺都市の特有施設等にも行き易いこと、他市からも訪れたいくなることも重要な要素と考える。

旧福間町に住み、旧津屋崎町との合併時に住民ワークショップに参加した福津市住民（今年 66 歳）として、次の合併は海岸と町並みが続き似た環境にある古賀・新宮と行き、松原を生かしたまちづくり等を提案したい。

・福津・古賀・新宮（二市一町）の現状

1.人口その他規模と名所等

人口(千人)、面積(k m²)、財政(金額百万円)等は(表-1)。何れもマンションも目立つ福岡都市圏の住宅地で、国道3号 495号、JR 鹿児島本線が貫き、白砂青松も続く。また、商工業・農産・水産・医療、レジャー施設や名所等も多い(表-2)。

2. 二市一町で形作る美しい海並み

(1) パラソルライン

玄海国立公園内のこの白砂青松は全長 10 km に及び、日本 100 選にはないものの長さでは有名松原より長く(おそらく西日本一)、大峰山からの展望はダイヤモンドヘッドを想わせる圧巻だ。

1500 年頃迄は、ここは広漠とした砂浜と考えられ、1600 年黒田藩時代になり海岸に広大な松の植林が行われ、400 年経過して今の松原(防風保安林)となった。

この松原全長の帯は美しいアイラインのように見えるが、新宮町ではパラソルの縁と称する如く、相島を柄の把手とした東向きパラソルそのものでもある(図-1)。

(2) 国際交流の相島は皆のもの

新宮町相島は、古賀海岸や福津市の福間・津屋崎海岸、宮地嶽神宮参道からも真正面に見える。史跡も多いが、江戸時代は朝鮮通信使の停泊地で、黒田藩が最大の持成をした国際交流の場所で、鐘崎港はもとより津屋崎や福間の港、当時の古賀の港からも食材等の応援を行ったことであろう。

400 年目の今年の宮地嶽神社秋季大祭では、韓国人スターも招待しての朝鮮通信使の行列が行われ、福岡市からの観客も見られた。

二市一町の人口と面積、財政状況等(表-1)

	福津市	古賀市	新宮町	合(合併値)
人口	56.3	56.3	23.5	136.1
面積	52.7	42.1	18.9	113.7
歳入総額	21,046	16,239	7,377	44,662
支出総額	20,228	15,801	7,121	43,150
実質収支	737	363	169	
実質公債比率	10.0	11.2	16.0	
1千人職員数	5.49	5.73	5.92	5.66(4.8)
職員数(H18)	309	322	139	770(653)
議員数(H18)	22	20	16	58(34)

二市一町の名所等特色(表-2)

	福津市	古賀市	新宮町
1	宮地嶽神宮	古賀ゴルフ場	盾の松原
2	津屋崎千軒	薬王寺温泉	立花山史跡楠
3	ウインドサーフィン	高専道IC-SA	相島史跡
4	大峰山展望		



二市一町合併の意義

1. 全国の市町村の合併と規模

全国規模の市町村大合併は、明治 22 年、昭和 30 年、平成 17 年前後と 50～60 年毎に行われ、現在の市町村の数、人口、面積は、総務省の資料によると、(表-3)の通り (H18.3.31 現在。但し、人口と面積は H17.4.14 統計値)。

	団体数	人口(千人)	面積(k m ²)
市	777	104,828	207,503
町	847	12,988	138,425
村	198	973	24,880
計	1,822	118,791	370,809

	人口	面積
市	134.9	267
町	15.3	163
村	4.9	126
計	65.2	203

団体当りの平均数値は(表-4)、

二市一町合併の場合(表-1)の合計欄人口 136.1 千人は平均値とほぼ同じ(面積は半分)となり、これに伴う職員と議員の定員減から、少なくとも毎年約 10 億円の削減が見込まれる。

合併により、隣接自治体の既存の交通も含む施設等の共有化、行政能力の向上がはかれる。

2. 古賀市長の合併提言

今年(H19年)7月10日、古賀市市長は福津市及び新宮町に合併を目指す提言書を渡されたが、H17年1月24日に発足した福津市の次の合併相手は福岡県の構想では宗像市となっている。ところが、提言書の如く、福津市は糟屋郡時代もあり、今日の日常生活からも古賀市が身近であり、長期的にみても必然性が高く、優先的に推進すべきである。

新市(二市一町合併)のまちづくりの提案

1. 新市内の整備

(1) 遊歩道整備計画案(自転車禁止)

ウォーキングは健康対策に有効でもあり、この松林 10km に日本一遊歩道を提案したい(図-2)。樹木に命名もされた「盾の松原」の新宮町や古賀市の松林内には住民に愛されている遊歩道があるが、福津市側レジャー施設は多いものの、遊歩道は未整備が多い。

【津屋崎・西郷川間】松林内遊歩道新設(赤点線)、福間港や海浜公園付近には防風提も有るが 500m 植林。暫定的に松林西側道又は国道 495 号歩道利用。

【花鶴川・古賀ゴルフ場沿い】用地境が不明だが、ゴルフ場に安全柵の整備、踏分道の遊歩道並み拡幅。

【人道橋】中小川には整備されている。西郷川には人道橋新設か既存の道路橋歩道利用。花鶴川は渇水時渡れる飛石新設か、西鉄廃線橋梁利用。

【休憩所】福間海浜公園にはベンチ及びトイレが、花鶴川畔にはベンチあるが、この間にベンチ、トイレを整備。最寄バス停や JR 駅案内と時刻表設置。福津市の松原内に遊歩道新設に困難部分があれば、現松林東西側道を日陰に合わせて歩く。

(2) 白砂青松および夕陽の展望

【大峰山展望設備】南側車道に柵を設け歩道確保。見通しをさえぎる樹木の低木化、または足場を向上。

【船上展望】相島からの眺めも良いが、相島渡船を運用し津屋崎港 1～2 往復。観光と釣の便をはかる。

【サンセットポイント】水平線上の日没位置は季節で移動(冬場は糸島半島上)。夏場、春秋場別に案内箇所を設定し、日没方向と時刻や相島紹介も表示する。



2. 市内から福岡都市圏ほか名所へのアクセス

マンション販売では、博多駅まで 21 分、天神まで 30 分などと宣伝するように、他市への交通便も重要であり、この観点から過去に応募した提案要旨を述べる。

(1) 千早駅で乗入による天神等への直結【第 2 回募集提案】

JR 線と西鉄貝塚（旧名宮地岳）線は同じ軌間で、千早駅にて同位置・同レベルにあることから、高架上に渡線を配線し、将来貝塚駅で貝塚線と地下鉄相互乗入時に合せ、JR 鹿児島本線から貝塚線に乗入れ、地下鉄線 1 号線に乗入れる。

JR 九州には交直両用電車があり、最小限の投資で現行線路を有効に生かすことで、北九州地区や宗像地区からの天神・糸島地区へ直通乗入が可能となり、所要時間は現在より 7 分短縮され、1 時間に 1 本でも安心感の効果が大きい。

(2) 夢、太宰府北鉄道の新設【第 3 回募集提案】

太宰府市では、九国博物館開館もあり観光客のマイカー増加による交通渋滞や騒音、排気ガスが深刻である。

現在、太宰府天満宮等への鉄道は西鉄太宰府線のみであり、北側から JR 香椎線終点の宇美駅から延伸し、既に多い住宅密集地を避けるため四王寺山にトンネルを通し、さらにロープウェイで天満宮近くの駐車場に到るものだ。

実現すれば、北九州・筑豊地区からも宇美経由で、バス並み運賃、タクシー並みの時間で安心して行け、地元の交通対策に寄与。電化されれば北九州からの直行も可能となる。

まとめ

1. 二市一町の合併が望まれる事例

今年 3 月末、西鉄宮地岳線は当松原に平行する二市一町 9.9km 間のみ廃止となった。同じ 3 月、イノシシがこの松林に出没し人を傷付け、福津市・古賀市を駆け抜け新宮町で捕らえられた。また、8 月初めには、シュモクザメが新宮沖から古賀沖、福津沖に回遊するのが発見され遊泳禁止の騒ぎとなった。新市なら、一元的に前広に高度な対応が取りやすい。福岡空港の着陸機は相島上空を通過するが、今後は、その新空港移転問題も控えている。

2. 高齢化社会のまちづくり

提案の松林遊歩道により、例年化した猛暑の炎天下を木陰で避け森林浴、冬の晴れた日には砂浜等で日光浴を兼ねた年中ウォーキングが可能となる。そのためには、遊歩道の維持管理のみならず松林の保全も重要で、ボランティア参加や新設の「森林環境税」の活用が必要となろう。宮地嶽神社の大注連縄日本一と並び、美しいカーブの西日本一長い松原と遊歩道は観光にも一役買うことになる。

住みやすさとは、周辺都市にある特有で一流の文化、運動、娯楽、医療施設や観光拠点等への便が良くなることでもあり、そのため乗換の無い鉄道が求められる。これは他から訪れやすくなることにもつながる。他市にも利益をもたらすものであれば、他市と共同で、国や県、鉄道会社にも働きかけやすくなる。鉄道会社にとっても、今後マイカー転移や旅客誘発も期待できよう。

合併が実現した後には記念の年に、相島で昔の烽火に代えて花火（30 号以上）を打ち上げれば、新宮、古賀、福津（福間・津屋崎）地区から取囲んで眺め楽しみ、一体感を育むことも出来よう。

【参考文献】 福間町・古賀町・新宮町の各町史、及び国県福津古賀各市、新宮町ホームページ
© 2007 Google-地図データ © 2007 ZENRIN

